

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800267		
法人名	社会福祉法人 絆福祉会		
事業所名	グループホーム ふるさと桜		
所在地	兵庫県神戸市垂水区塩屋町6丁目38-15		
自己評価作成日	平成27年7月10日	評価結果市町村受理日	平成27年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティー・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成27年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である「みつめあう目と目、つなぎあう手と手、ふれあう心と心、人と人との絆を大切に」を理解し、入居者様、ご家族様とも信頼関係を構築できるよう援助をさせていただいています。開設して1年のホームで、まだまだ至らないところも多くありますが、入居者様、ご家族様が安心して利用を続けていただけるよう、また、職員一人一人がやりがいを感じて、介護の仕事ができるよう努力させていただいています。

同法人の特別養護老人ホームやケアハウス、デイサービスとも連携をとり、グループホーム内にとられない支援を提供させていただいています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者介護事業を多角的に展開し、地域で存在感をもつ福祉法人を母体とし、その豊富な経験と資源に支えられ入居者は家庭的な雰囲気の中で、職員の支援を受けながら共同生活を送っている。

法人の理念と事業所の基本方針に基づく年度事業計画を策定し、週1回のユニットミーティング、毎月のリーダーミーティングと定例会議を中心に、計画、実行、点検、改善のPDCAサイクルを回す運営体制ができています。

職員の教育研修は年間計画に基づき実施しており、特に「高齢者虐待防止」教育は全職員に出席を義務づけている。

毎月「5」のつく日を「スマイルデー」に決め、入居者、職員ともに「笑顔を忘れない」活動を行っている。法人内に3匹の愛玩犬を飼い、入居者は自由に犬に接することができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を掲示し、事業計画を職員へ配布することで、事業所の理念を職員が理解できるよう努めています。また、日々の支援において、事業所の理念に沿った支援が提供できるよう、職員への指導をその都度行っています。	法人の理念は入口に掲示している。事業所理念は、「介護サービスの運営方針」の作成要請に応えた年度の事業計画の「基本方針」として定めた。そして、基本方針に沿って年間目標とその具体策である実践計画を策定し職員に周知し、ホームページで公表している。	「理念」は事業所が目指すサービスのあり方を端的に示したもので、常に立ち戻る基本的な考え方です。事業所のある塩屋地域の特長を踏まえた独自のサービスのあり方を追求することを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームにおける日常の買い物などには、入居者様と一緒に、地域のスーパーやホームセンターなどへ行くようにしています。また、地域の祭りに参加したり、法人の祭りに周辺の住民に来てもらっています。	オープンして日も浅いことから、地域との付き合いについて運営推進会議に相談して助言を得ている。運営推進会議メンバーの自治会長の紹介で、東垂水小学校の夏祭りや文化祭等への参加を考えている。母体法人は「ふれあいのまちづくり協議会に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会では、認知症の方への支援を通じての体験などを報告させていただいていますが、地域の方に向けては行っていません。今後は勉強会のようなことを開催し、地域の方に参加していただく予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見で、支援に対しての内容は、職員会議などで報告をし、出来る限り取り入れていくようにしています。	2か月に1回開催し、議事録はホームページで公表している。メンバーから出された運営に関する意見、地域の行事に関する情報は事業所の月例会議で報告し、運営に生かせるよう検討し、結果を次回の運営推進会議に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業の内容に変更があるときや、入居者様に入院治療が必要になった時の報告は、その都度させていただいています。	入居者の入院治療の報告や認定更新の時は、現場の状況、課題等を知ってもらうため、市の担当者とのコミュニケーションに努めている。同じ敷地内の法人が受託する地域包括支援センターと連携して問題解決に取り組むこともある。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より身体拘束をしないよう取り組みをさせていただいておりますが、緊急やむを得ない場合には同意をとってから実施しています。玄関の施錠に関しては、時間やセンサーの使用を検討し、外していけないかの検討をしています。	マニュアルを備え、法人の年間教育計画に従って毎年研修を行う。事業所内の月例会議で「鍵をかけない暮らしの大切さ」の啓発を行い、ユニット玄関の鍵をはずして安全に過ごせないか、振り返りを交えて議論を交わし、工夫を重ねている。	鍵を外せないか、時間帯やセンサーの使用などを検討していますが、このような安全面にも配慮した適時適切な方法で着実に進めていくことを期待しています。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、法人内の職員全員に対して高齢者虐待の研修会を開催しています。また、グループホームの会議においても、身体拘束などの内容の勉強会を取り入れていきます。	法人は年2回「高齢者虐待防止」の研修を行い、全職員の出席を義務化している。事業所内でもその内容を取り入れ、繰り返し学習している。シフトの調整や家庭環境の変化などの原因で職員がストレスをため込んでいないか、ヒアリング等によりフォローしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者虐待の研修会の内容に、成年後見制度の内容が含まれていることがあります。入居者に対して、制度を利用することの説明をしたケースもあります。	高齢者虐待防止とセットで研修している。入居者家族から成年後見制度利用について相談を受け、同一敷地内の地域包括支援センターを紹介した。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時などは、管理者が対応するようにしており、十分な時間をかけて説明するように努めています。	管理者が時間をかけて重要事項説明書、契約書の内容を説明する。特に金銭負担に関する事項は、納得が得られるまで説明するよう努めている。重度化した場合の対応について、契約時に事業所の方針を説明し、出来ること出来ないことを明確にしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会などで、ご家族からの意見をいただき、日頃の支援に活用させていただきます。	運営推進会議や家族会で家族等の意見を聞いている。また家族が訪問されたときは、その入居者の担当職員が応接に当たり意見等を聞き取り、ミーティングや月例会議で話し合い反映させるようにしている。次回の家族会は、8月30日の納涼祭の時を計画している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議において管理者より職員に対して意見を求めるようにしています。また、日頃の業務の中で、意見を聞くよう努めています。	職員が現場で感じたことなどを週1回のユニット会議で集約し、毎月のリーダー会議又は月例会議で聞く仕組みがある。職員に直接、意見を聞く個別面談を年2回に増やした。出された意見は実施可能な形に調整して運営に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与の査定には人事考課を導入しており、能力や経験に合わせての査定を行っています。また、定期的な面談を実施し、職員が不安に思っていることなどの聞き取りを実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、法人全体の勉強会を開催し、全職員が学べる環境を整えています。また、認知症介護実践研修を計画的に受講できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各事業所との関わりを持てるよう、勉強会などは法人全体で開催をしています。また、地域ケア会議やグループホーム連絡会など外部の同業者との関わりを持てる場への参加をさせています。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を受ける段階で、管理者が面談をしており、不安に思っていることや、どのような生活を望まれているかの確認を、させていただいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談を受ける段階で、管理者が面談をしており、ご家族として不安に思っていることや、どのような生活を望まれているか、介護への思いなどの確認を、させていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の面談の段階で、ご本人にどのような支援が必要なのかを判断しており、入居と同時にご本人に合わせた支援を提供できるよう努めています。また、各種医療や訪問リハビリなどの検討も、相談をさせていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームでの支援においては、職員も1家族として関わりを持つよう意識付けをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の支援に関しては、ご家族にも相談をするよう徹底しています。また、可能な限り積極的なかわりを持っていただき、絆を深めていただけるよう対応をしています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週の礼拝や買い物、友人との関わりなどが入居をすることで途絶えないように、ご家族にも協力をしてもらいながら支援をしています。	馴染みの人や場所はセンター方式を参考に把握している。近隣からの入居者が多く、日常的に散歩や買い物に出かけ、知り合いや馴染みの人たちと挨拶を交わす関係が続くことを大切にしている。入居者の一人と他施設利用者と一緒に教会の日曜礼拝を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から、一緒に作業をして頂いたり、レクリエーションへの参加を全員に促したりし、入居者様同士の関わりを持てるよう、支援をしています。また、ユニット合同でのレクリエーションや行事を開催し、ユニット間の関わりも持てるよう支援をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居になった方に対しては、お見舞いをさせていただくことで、関係性の継続をさせていただいています。また、退院後の在宅もしくは施設生活への移行を支援しています。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や介護計画の評価の時に、意向の確認をしています。団体生活の中で可能な限り意向に沿った対応を計画的に行えるよう心がけています。	開設1年で利用者も比較的元気な方が多く、思いや要望は日常会話の中で聞き取るように努めている。職員に配布する勤務表の右上には、利用者目線を意識することを「今月の目標」として記載している。家族からも来所時に要望を聞き、可能な限り個別対応ができるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談時に生活歴や環境などの把握に努めさせていただいています。個人の習慣などをユニットの中でも提供出来るよう支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の支援において、過剰な介護にならないよう、その人に合わせた支援を検討しています。また、今の状態ができる限り維持できるよう、生活リハビリとなる内容を提供しています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり、他の職員の意見や、ご本人、ご家族の意向を取り入れた内容となるよう努めています。また、定例の会議においても支援の内容に問題がないか、介護職員も含め検討をしています。	常勤の介護者1名が3名を担当し、週1回のユニット別ミーティングや3ヶ月に1回の管理者・計画策定者・担当者のモニタリングで体調変化、レクリエーション参加状況等を具体的に検討している。状況変化に即対応した記録や次回のモニタリングの時期も記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況は個別のケース記録に残しており、支援の見直しについては、個別のモニタリング用紙を使用し、職員間での共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内の特別養護老人ホームやデイサービスなどと連携をとり、交流を図ることでグループホームだけにとらわれない支援を提供しています。また、保険外の訪問リハビリなどを紹介し、その人の必要性に合った支援の提供をしています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前からの習慣などを面接時に把握できるようにしており、入居後もできる限り継続ができるよう支援をしています。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、入居の契約時に希望を聞いて決めさせていただいています。受診に関しては、ご家族へ状況を説明し受診する病院を相談させていただいています。	以前からのかかりつけ医で受診する方は1名で家族が同行するが事業所が対応することもある。その他の人は往診してくれる協力医院をかかりつけ医としており、事業所は基本情報や状況変化の有無、注意事項など連絡表に赤字でこまめに記録し、情報を提供している。	高台にあるので、通院時の交通の便や家族の同行する手間を考え、往診してもらえる協力病院への変更を希望される人が多いようですが、入居時に利用者のご様子や要望をていねいに聞きとり、検討することも必要ではないでしょうか。
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態に異常が見られれば、管理者、訪問看護へ状態を報告し、対応を決めさせていただいています。また、平素より訪問看護と個別の情報を共有できるよう努めています。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった場合は、管理者が付き添うか後日訪問をし、病院の相談員との関係づくりに努めさせていただいています。また、医療的な処置とご本人やご家族の意向を勘案し、今後の方向性を導ける努力をしています。	現在骨折で入院中の方は2か月後の退院に向け管理者が定期的に見舞いに行き、病院のソーシャルワーカーとも情報交換を行っている。以前、早期に退院された方に、地域ケア会議で訪問リハビリテーションが自費で無理なく利用できることが分かり、うまく対応できた事例がある。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針を説明させていただき、同意をいただくようにしています。グループホームでの対応が困難となった場合の希望する病院に関しても、契約時に確認をさせていただいています。	看取りの方針は入居時に説明しているが、実際のケースはまだない。看取りを希望された場合の具体的な取り組みについては、医療的なサポートは不可欠であり、また事業所の人員体制などの条件整備も必要なことから、これらの検討を進めていくことにしている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度、心肺蘇生の訓練を受けてもらっています。また、急変が発生した場合の、マニュアルを作成し、実践できるよう努力をしています。		
35	(17)		○災害対策	年に2回の消防訓練を実施しています。また、災	法人本部が地域の防災委員会のメンバーと	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	害時の避難場所などについては、マニュアルと一緒に保管して、職員に周知しています。また、地域の方にも訓練に参加していただき、本火災時に備えています。	なっているので、年2回の消防訓練には、ふれあいのまちづくり協議会を通じて、地域住民の参加も呼びかけ実施されている。災害時の備蓄も準備されており、法人本部として、近隣の災害時要援護者の避難受け入れ先ともなっている。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃からの支援や声掛けについては、不適切であればその都度、管理者やリーダーから指摘をするようにしています。また、適切ケアの勉強会を定期的開催しています。	研修の必須テーマとして「尊厳重視」に取り組んでいる。職員は不適切な対応にならないようお互いに注意を払いつつ、意見を述べ合い、それを記録して、振り返りも出来る。入居者の生活習慣やこだわりの行為なども、その意味を共有し尊重するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の支援や介護計画の作成に関して、利用者様本位の内容となるよう努めています。また、何事にも意欲をもっていただけるよう、小さいことからの実現を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の、利用者様の状況に合わせた支援を提供するよう心がけております。職員の人数にゆとりがあれば、個別に散歩などの提供をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様が今まで着られていた服や好まれる服を着ていただくようにしています。職員が声掛けをすることで、自ら身だしなみにも配慮できるよう支援をしています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様、それぞれ出来ることは手伝っていただき、調理を好まれる方は、職員と一緒にしていただいています。作る喜び、食べる喜び、役立つ喜びが大切であると考えています。	食材については、職員と一緒に買い物に出かけたり、生協の共同購入のチラシを一緒に見ながら選んだりしている。季節の行事に合わせ、おやつなども手作りしている。配ぜんや片付けなどは、役割として自主的にしている人もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士に献立を作成してもらい、摂取量や水分量は毎日記録に残して把握に努めています。水分は1500mlを1日の目標として提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促しており、介助が必要な場合は、職員が介助をしています。また、歯科の診療が必要な場合は、歯科診の申し込みを援助しています。		

自己	者三	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日毎に排泄の状況を確認しており、状況を把握しています。また、出来る限りトイレでの排泄を維持できるように、身体機能が低下しないよう援助をしています。また、個別に排泄のペースを把握し、誘導できるよう努めています。	入居者の半数がリハビリパンツを使用しておられるが、尿意が分る方が大半である。水分補給は、1日の摂取量と必要量をグラフ化し、一目で分かるようにしている。便秘気味の方は、服薬等医療的な支援のもと、記録を参考に、様子を見ながら声掛け誘導ができるようにしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無の確認を徹底し、状況を把握しています。便秘の予防としては水分量や食物繊維、運動に注意しています。必要であれば下剤の調整を医師へ相談しています。	
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的の入浴をしていただけるよう、促していますが、その時の拒否が強い場合は無理強いをせずに、時間や日をずらして対応をしています。入浴の間隔があくようであれば、やむなく清拭での対応をさせていただくこともあります。	入浴はほとんどが午後からで、少なくとも週2～3回は入浴できている。拒否が続く人はいないが、無理強いせず、様子を見ながら声掛けをし、楽しく入浴できるようにしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠がとれるよう、日中の過ごし方を検討しています。また、日中、疲労がみられる場合は、負担にならないよう休息を促しています。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬情を保管しており、内容の確認をしています。正確に服薬できるよう、服薬の援助、確認を徹底しています。また、必要に応じて主治医とも相談させていただいています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴や趣味、現在の生活状況を確認させていただき、入居後の生活支援に参考とさせていただいています。物づくりや園芸などにも、積極的に参加していただけるよう働きかけています。	
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の勤務状況を見て、買い物の付き添いや散歩などの支援を提供しています。また、シャトルバスに乗り、駅前までの外出支援を計画しています。可能であれば、ご家族にも外出をすすめています。	事業所は高台にあり、駅前の商業地区へは車が欠かせない。送迎車や職員用シャトルバスなども利用して、外出の機会を確保している。家族が親戚への訪問やお墓参りの際には誘いに來られて一緒に出掛けることも多い。日曜礼拝行かれる方は、教会からの送迎を利用している。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に相談し、了承を得てから、ご本人に所持していただくようにしています。残金の確認を職員でさせていただくことで、管理をしています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方は、ご自分でかけられています。手紙などの希望があれば、準備の支援をしています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間や居室内は、落ち着いて過ごしていただけるよう、配慮をして環境を整えています。また、日頃の写真などを飾り、安心していただけるよう援助をしています。	ほとんどの入居者が日中はリビングで過ごされている。それぞれ好みの場所があるようで、初対面の調査員にも入居者が声を掛けてソファーに招いてくれた。壁面は、入居者の手作り作品や理事長が選んだ調度品が配置され、程よい生活感を感じられた。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来る限り、日中はフロアで一緒に過ごしていただけるよう、環境を整えたり、レクリエーションを促したりしています。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居されてからも、なじみの物があればご家族に依頼して持ってきていただき、安心して過ごしていただける環境を整えるようにしています。	居室は入居者一人一人の好みでベッド等が配置され、各室とも個別的であった。お元気な人は、食事の前には、居室内に設置されている洗面台で手洗いとアルコール除菌をして、テーブルに着くようにされていた。自宅に置いてある仏壇を持って来るかどうか、思案中の方もあった。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動作しやすい環境を整え、出来る限り、ご自分で出来ることを維持できるようにさせていただいています。また、職員により作業などを促し、一緒にすることで、出来ることを維持できるよう努めています。		